

「須藤元気議員に MMT をレクしたって本当ですか？」

令和 3 年 3 月 3 日

●ウォーキャットさんからの質問

2021 年 2 月 25 日、参議院議員で無所属の須藤元気議員が Twitter で西田さんに MMT のレクチャーを受けた旨、発信していました。どのような経緯でレクに至ったのでしょうか？須藤議員にどのようなレクを行ったのでしょうか？西田さんから見て須藤議員はどのように写っていますか？私はお二人ともに【現代貨幣の単なる事実】を広めるために尽力されていると思いますし、特に須藤議員には大きな期待を寄せています。ご意見のほどよろしくお願い致します。

●シクラメンさんからの質問

2021 年 1 月 2 日、立憲民主の原口一博議員が自身の YouTube チャンネルにおいて、『金利が限界まで下がっている。今まで言っていた事が天動説と地動説の違いくらい、間違いが有ったと考えるのが自然。今回の三次補正や令和 3 年度本予算にしる超緊縮なんです。やるべき事は、国民を救う事。貧困を拡大し、一部の人が得をするような、構造を変えていこう。赤字財政で潰れているのは、自国通貨が発行できない国。自国通貨建ての通貨発行で潰れたりはない。財務省から潰される世の中のは変。彼らも薄々分かっている。』と朝の挨拶の中でおっしゃっておられました。原口議員は、他の動画でも MMT は、正しい。財政出動に関しては、賛成の立場でコロナに関する検査体制、給付金などにダイナミックに国債発行やっていく事が、命と生活、生業を守る事につながると主張されておられます。私は、今の財政の事を熟知されておられる方だと感じますが、西田先生は、どのようにお考えでしょうか？

●西田昌司の答え

須藤さんが公にされているようなので、須藤さんとのやり取りをお話します。

須藤さんと安達澄さんと寺田静さんは無所属の参議院議員の先生ですが、この先生方が集まって勉強会をされているそうです。その勉強会において、私が衆参の全国会議員に配った『コロナショックで緊急提言 消費税を当分の間ゼロに！ MMT(現代貨幣論) ならそれが可能だ！！』という冊子が話題になったそうで、彼・彼女らは冊子の内容がどうも正しいと思ったようです。そこで私の話を直接聞きたいということになり、先週、須藤さんらとお会いする運びとなったのです。

須藤さんらと会った後、今度は立憲民主の原口一博さんから電話がかかってきました。原口さんも冊子の内容に同意とのことでしたが、私が書いた『財務省からアベノミクスを救う』という本を原口さんから所望されました。

私は『財務省からアベノミクスを救う』という本を自民党の衆参の国会議員全員に配りましたが、私はてっきり（自民党だけでなく）全国会議員に配ったと思い込んでいましたし、どこかの動画でそのように発信したように思います。原口さんはおそらくそれを見られたのでしょう。「私のところには来ていないよ」と暗に催促されるので、原口さんのところまで本を差し上げに参りました（その後、西田事務所に確認したら、野党の先生には配っていないとのことでした。ちょっとお高い本なので全国会議員とまではいかなかったようです）。

上の四名の国会議員さんに限らず、私の冊子や本をきちんと読んでいた国会議員さんは同意していただけるはずですし、自分の頭で素直に考えれば MMT などそう難しい話ではありません。しかし、財務官僚や自民党の緊縮派が何故理解できないかと言うと、その本音は「わかりたくない」からなのでしょう。

先ほど、大蔵省のOBの方とお話しましたが、MMTに話が及ぶと「先生のおっしゃる通りですし、現代の通貨はMMTが言う通りに発行されています」と認められます。しかし、彼らの現役時代にはそう思っているとも言えないのです。なぜなら、財務省（旧大蔵省）の立場は（財務省設置法にあるように）「健全な財政の確保」を守らなければならないからです。

確かに、政府が無制限に通貨を発行して徴税もしなくても良いとなったら国は崩壊しますが、何もMMTはそのようなことを主張しているのではありませんし、長引くデフレ状況の上にさらにコロナ禍に襲われた今の日本においては、政府の負債を増やしてでもやるべき仕事はやらなければなりません。自国通貨建て国債を発行している日本において、予算がないから（必要な仕事が）できないなど政治の責任放棄に他なりませんし、過度のインフレにならない限り予算の制約はないのです。

MMTを批判する論法の一つに「予算に制約がないのはわかったが、予算に制約を設けないと過度のインフレを招いてしまう」というのがありますが、今の日本においてインフレに困るような状況にどういったらなるのでしょうか。デフレ下で政府予算を増やさなければならないにもかかわらず、予算を増やさずに逆に増税をしますますデフレを加速させているのが我が日本です。そんなストイックな日本がどういったらインフレに困るような状況になるのでしょうか。

「デフレ状況においては政府支出を増やし、逆にインフレ状況においては政府支出を減らすべし」という機動的財政出動の考えを認めてしまうとこれまで築いてきた自分の立場がなくなってしまう、と恐れる人々がいて、そのような思考停止した人々によって日本は駄目にされていますが、これからも諦めずに繰り返し説き続けるより他ありません。

今回、無所属の三人の先生が話を聞きたいとお近づきになられたのは非常にありがたいですし、御大・原口先生からも温かいお言葉をいただき嬉しい限りですが、これで終わってはなりません。自民党の緊縮派の先生方にも反

緊縮の理解を求めていかなければなりませんし、（政治家のみならず）日本国民が財政に関する正しい捉え方をしない限り、いつまで経っても日本は良くなりません。

自民党の先生のみならず、ご要望があればどの先生であっても喜んでレクチャーいたします。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>